

## 第 51 回 紫友会まち歩き

### 玉川上水を歩く

玉川上水の上流への緑豊かな散歩道をゆっくり歩きます。江戸東京たてももの園や平櫛田中彫刻美術館も見学します。

台風 11 号は通り過ぎたが、余波を気にしながらの開催でした。その後は恒例の懇親会です。

日時：2015 年 7 月 18 日(土)

天気：曇り時々小雨

集合時間：13 時

集合場所：江戸東京たてももの園入口前

参加者：19 名

案内人：025 市原 懇親会協力 018 梅島

懇親会：大衆酒場 国分寺市場

懇親会参加者：20 名

今回の歩数：18,000 歩ほど

ところで、国分寺、玉川上水関連の今までのまち歩きは 2 つありました。

#### ・第 6 回 2006.11.19 雨 国分寺界限

平成 18 年 西国分寺駅－姿見の池－日立中央研究所庭園－お鷹の道－湧水群－万葉植物園－国分寺跡－国分寺駅－駅ビル喫茶店

#### ・第 13 回 2009.03.07 晴 吉祥寺・三鷹

三鷹駅－禅林寺－太宰治文学サロン－玉川上水風の道－山本有三記念館－井の頭自然文化園－まことちゃんハウス－吉祥寺駅前ハモニカ横丁 →清龍

<解説>玉川上水：

工事の総奉行に老中で川越藩主の松平信綱、水道奉行に伊奈忠治(没後は忠克)が就き、庄右衛門・清右衛門兄弟(玉川兄弟)が工事を請負った。資金として公儀 6000 両が拠出された。

羽村から大木戸までの約 43 キロメートルはすべて露天掘りであった。羽村から四谷までの標高差が約 100 メートルしかなかったこともあり、引水工事は困難を極めた。多摩の羽村から四谷までの全長 43km が 1653 年に築かれた。今回はそのうちの 6km を歩く。

#### ■ 行程

江戸東京たてももの園 → 玉川上水上流へ散策 → 平櫛田中彫刻美術館見学 → さらに玉川上水上流へ散策 → ふれあい下水道館 → 鷹の台駅から 国分寺駅へ電車移動 → 懇親会場

#### ① 江戸東京たてももの園入口に集合

台風の余波か小雨が降っている。建物の中で集合。小雨のためか一部の人が少し遅れる。



65 歳以上は 200 円でお得感あり。1 時間後に再集合で各自見学に出かける。園内のガイドから時間が少ないので、建物見学は、三井八郎右衛門邸と高橋是清邸の二つを進められる。あとは基本外形を見るだけ。うれしいことに園内用に傘を貸し出していた。

### ・三井八郎右衛門邸

昭和 27 年に西麻布に建てられた。モダンなキッチンルームや和室など、洋風と和風の建築が混在している。



庭から全景を撮る。初夏の景色。



蔵は明治 7 年のものを復元。3階造り。駿河町三井越後屋の絹蔵であったという。



### ・高橋是清邸

明治から昭和のはじめにかけて日本の政治を担った高橋是清の住まいの主屋部分です。総母普請。



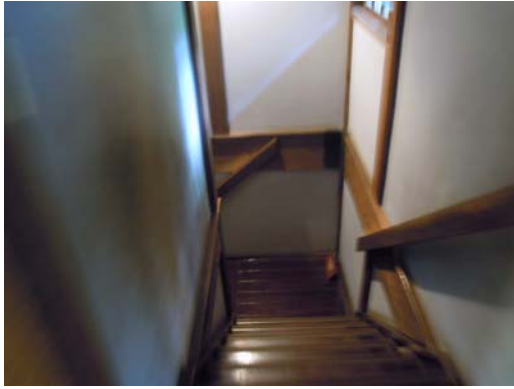
港区赤坂にあった庭園の一部を復元。



木枠にはめ込まれている窓ガラスは100年前のもので、横から見ると歪んで見える。千と千尋の神隠しにも使われた。



ここ2階は是清の書斎と寝室として使用されていた。1936年(昭和11年)の2・26の現場になった。早朝この階段から兵士十数名がなだれ込み、白の寝間着姿で布団に座っていた是清に銃弾を浴びせ、軍刀で切り付けた、即死であった。とガイドが説明していた。



上村邸は、看板建築の特徴を表している。大震災後の建物。小さくぼんでいる多くのへこみ跡は戦争での爆弾の傷跡だと誰かが話をしていた。



前川國男邸



銭湯の子宝湯。左の富士の絵が描かれている方が男風呂。つまり、女湯に入っの撮影だ。



八王子千人同心組頭の家

わらぶきで、特別展示日か、内部の囲炉裏には火が入っていた。暗い中の炎が懐かしい。



神田万世橋のそばにあった万世橋交番。トレーラーでそっくり移築された。



雨もやんできた。これから玉川上水を上流に向かって4 km、一時間ほど歩く。案内人が軽く概要説明をする。

## ② 玉川上水を上流へ散策

ここから右手の上流方向に歩いて行く。



小金井橋、貫井橋、茜屋橋、小桜橋、喜平橋。  
八左衛門橋、桜橋、一位橋など多くの橋を通り  
過ぎていく。



道もぬかるんでいなくてよかった。川の水量は台  
風後の雨にもかかわらずそれほど多くはなかつ  
た。



付近は小金井桜で有名だった。  
川岸はしっかりと整備されている。

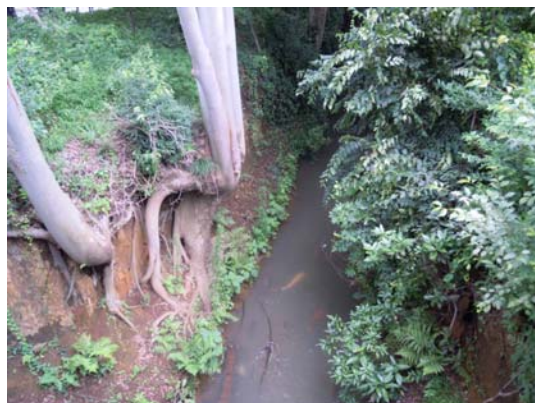


説明板の中のお花見状況の写真を参考まで。



川沿いの大きな木はしっかりと根を見せてい  
る。根ががっしりと大地をつかみ、倒れないように  
頑張っているようだ。

大きな鯉も数匹泳いでいる。



西武多摩湖線の踏切を過ぎる。



さらに進んでいく。



野草保護観察ゾーンの花たちの一つ、ノカンゾウ(ユリ科)を写真に撮る。



一位橋を過ぎたあたりから右手に折れるとそこは平櫛田中彫刻美術館。

### ③ 平櫛田中彫刻美術館見学

団場でチケット購入。250 円。

＜解説＞平櫛田中は、明治5年、現在の岡山県井原市に生まれ、青年期に大阪の人形師・中谷省古のもとで彫刻修業をしたのち、上京して高村光雲の門下生となりました。その後、美術界の指導者・岡倉天心や臨済宗の高僧・西山禾山の影響を受け、仏教説話や中国の故事などを題材にした精神性の強い作品を制作します。

大正期には、モデルを使用した塑造の研究に励み、その成果を代表作《転生》《烏有先生》などにおいて示しますが、昭和初期以降は、彩色の使用を試み、「伝統」と「近代」の間に表現の可能性を求めました。昭和33年に22年の歳月をかけて完成した国立劇場の《鏡獅子》に田中芸術の集

大成を見ることができます。昭和37年には、彫刻界でのこうした功績が認められ、文化勲章を受章しました。

昭和45年、長年住み暮した東京都台東区から小平市に転居し、昭和54年に107歳で亡くなるまでの約10年間を過ごしました。



平櫛田中没後、遺族からの寄贈作品が展示の中心。常設展示では、代表作の「鏡獅子」、「尋牛」、「気楽坊」、「新春」等が展示されている。撮影禁止。案内看板からかわいい子犬の「新春」を撮影。



隣の記念館は写真OKというので、アトリエなどを撮る。



ゆったりと休憩を取っている人もいる。



田中の名言「いまやらねばいつできる わしがやらねばたれがやる」の書が飾られていた。



他に「六十、七十は鼻たれ小僧、男ざかりは百から百から、わしもこれからこれから」がある。参考にしていきたい。

#### ④ さらに玉川上水上流へ散策

小一時間で玉川上水を上流に向けての歩きを再開。

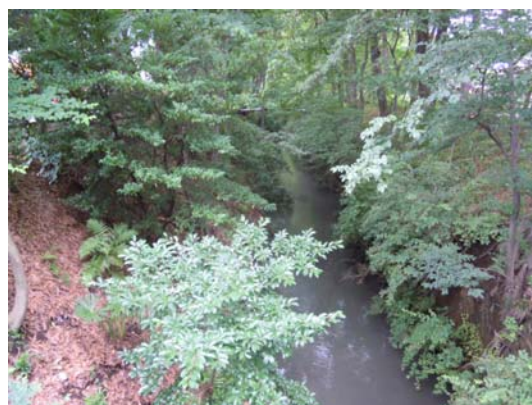


商大橋、小松橋、鎌倉橋、九右衛門橋とまた橋がいくつもある。

この百合の名前はヤマユリ。



小川水衛所は楕形の柵で大きなゴミが下流に流れないようにフィルター役目をして、下流へスムーズに水を流す大切な役目がある。(有名な場所とは分ならず、写真は撮らなかった。)



### ⑤ ふれあい下水道館

九右衛門橋を左に折れるとすぐそこにふれあい下水道館が見えてきた。

案内人が入口のマイクで館内と話をしている。開館が4時までで我々は遅れてきたのだ。ネゴをしたが 残念ながら本日は入館できなかった。



地下深くで本物？の下水道の中を見学できるようだ。



しかたなく、館の前で 全員の集合写真を撮る。



鷹の台駅に向かう。途中生産直売の野菜売り場があり、ちょうど採れたてのショウガ、ネギ、キュウリ、トマトなどの野菜を店に並べ始めている。「安い！」と多くの仲間が購入。ネギは安いけど、帰りの電車での匂いが気になるので購入しない。



### ⑥ 鷹の台駅から国分寺駅へ電車移動

東鷹の橋、鷹の橋の間を西武国分寺線が通っている。鷹の橋を右折して鷹の台駅へ。



鷹の台駅から恋ヶ窪駅、国分寺へ向かう。

ここから懇親会会場の案内が始まる。親切にも輪島のだんごのお店を紹介してくれたが、既に売り切れ、お店も閉まっていた。



### ⑦ 懇親会

懇親会場は、大衆酒場『国分寺市場』。15:00 から店を開いているので、少くく早くて問題は無かった。今回のまち歩きはしっかりと歩いたおかげで、汗をたっぷりかき、ビールが久しぶりにおいしく、キューとしました。



いつものようにしばし懇親。後半に次回以降のまち歩きの紹介もあった。

お疲れ様でした。8時過ぎには解散。

